

出雲・隠岐海域漁場保全調査

(漁場環境保全対策推進事業)

山根恭道

1. 研究目的

水産生物にとって良好な漁場環境の維持を図るため、八束郡鹿島町および隠岐郡西ノ島町沿岸域において水質、生物のモニタリング調査を実施する。なお、調査の詳細は「平成 12 年度漁場保全対策推進事業調査報告書 (海面)」に報告した。

2. 研究方法

調査方法の概要は下表の通りである。

水質調査		調査地点	調査回数	調査項目、内容
		鹿島町5点 西ノ島町7点	隔月	水温・塩分・DO(0, 2.5, 5, 10, 15, 20, 30, 40, 底から2m)および水色、透明度
生物モニタリング調査	藻場調査	鹿島町12点 西ノ島町10点	6, 8月 6, 8月	藻場面積および、生育密度を5段階で評価
	底生生物調査	鹿島町5点 西ノ島町6点	6, 8月	底泥の温度、粒度組成、COD、TS、底生生物の個体数・湿重量・種別または類別分類。

3. 研究結果

(1) 水質調査

透明度は鹿島町では 7m~19m、西ノ島町では 7~25m、水温は鹿島町では 12.4~28.7、西ノ島町では 11.9~27.2 であった。また、塩分は鹿島町では 30.45~34.41psu、西ノ島町では 32.75~34.52psu、DO は鹿島町では 5.54~9.44mg/L、西ノ島町では 0.39~10.56mg/L であった。

(2) 生物モニタリング調査

鹿島町では多年生大型褐藻類のクロメ場 12.5ha (水深 1.5~12m) を観察し、その結果 6 月が 2~5 点、8 月が 2~4 点、平均がそれぞれ 4.0 点と 3.0 点であった。西ノ島町ではガラモ場 0.3ha (水深 1.5~8m) を観察し、6 月が 1~4 点、8 月が 4~5 点、平均がそれぞれ 2.4 点、4.3 点であった。

底質の結果は鹿島町で、COD の値は 6 月が 0.4~3.9mg/g 乾泥、8 月が 0.8~2.5mg/g 乾泥であり、TS は両月とも ND であった。西ノ島町では、COD の値は 6 月が 3.2~9.0mg/g 乾泥、8 月が 4.9~12.1mg/g 乾泥であり、TS の値は 6 月が定点 7 (ND)~2 (0.005 mg/g)、8 月は全の定点で ND であった。

鹿島町では S M 採泥器 1 回当たりで採取された底生動物の個体数は 5 地点の合計で 6 月が 1546 個体、8 月が 687 個体で、1g 未満のものの湿重量は 6 月が 7.0g、8 月が 2.9g であった。

西ノ島町では底生動物の個体数は 6 地点の合計で 6 月が 460 個体、8 月が 131 個体であった。1g 未満のものの湿重量は 6 月が 20.6g、8 月が 2.8g であった。

類別の構成については鹿島・隠岐ともに多毛類が主体で、多毛類の出現割合は多い地点で 91% を占めた。多毛類以外の出現種については、触手動物の筈虫類が高い割合を示した。